

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	4
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	4	安全・安心な農業の振興		

1 施策の概要

基本方針	農業者・農業団体と連携しながら、家畜排せつ物の処理、使用済み農業用資材適正回収、搾乳施設からの排水の処理を徹底するとともに、漁業・水産加工業と連携した環境保全対策を推進します。さらに、農場HACCPなど、農畜産物の生産・加工・流通の各段階におけるリスク管理を徹底します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	酪農業を安定的に発展させるため、「土-草-牛」の循環を基本とした資源循環型酪農・畜産の確立を推進している。	持続可能な農業を展開するために、環境への十分な配慮をしながら、家畜排せつ物の有効利用を図っている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	家畜伝染病の発生に備えるため、危機管理体制の強化と効率的な防疫体制が求められている。また、搾乳を行うパーラー施設からの排水量が増加し、新たな汚水処理が必要となっている。	家畜伝染病の発生に備えるため、危機管理体制の強化と効率的な防疫体制が求められている。また、搾乳を行うパーラー施設からの排水量が増加し、新たな汚水処理が必要となっている。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					45億円	
	実績値		38億円	50億円	51億円	53億円	
指標2	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					40,000 t	
	実績値		36,628t	38,582t	37,651t	36,802t	
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	太陽光発電システム導入事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
②	【再掲】中山間地域直接支払制度	農務係	93,265	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	本施策により環境対策が図られることと、再生エネルギーの活用により経営コストの削減が図られることから、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により、環境対策が図られることから循環型農業の確立がなされることから、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策は効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られているが、再生エネルギーの活用については、調査・研究段階であり、今後、検討を進める必要がある。
④ 公平性	A	本施策により環境保全対策が向上し、町民の理解が得られることから公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関や受益農家との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策の実施により循環型農業の推進が展開されており、環境保全が保たれている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
安全・安心な農業の振興は、今後もより強く求められることから、今後も継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止